

令和 8 年 3 月 吉日

世田谷区立芦花小学校
学校長 諸角 哲男 様

世田谷区立芦花小学校
学校関係者評価委員会
委員長 柴 田 薫

令和 7 年度 世田谷区立芦花小学校 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立芦花小学校学校関係者評価委員会では、令和 7 年度学校関係者等の評価アンケート結果ならびに学校自己評価報告書、授業や行事の参観、先生方との懇談などをもとに、令和 7 年度の学校関係者評価報告書を作成しましたので、ここに報告いたします。

今年度の学校経営方針である「地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる」学校をめざして進めてこられました。諸角校長先生のリーダーシップのもと、子どもたちが 1 年間充実した学校生活を過ごすことができたことを、当委員会は高く評価しています。

更なる教育活動の充実を目指し、本報告書を令和 8 年度の学校運営にお役立てくださいますよう、お願いいたします。

I 学校関係者等アンケート結果について

以下の通り、今年度の学校関係者等アンケートを実施しました。結果の詳細は、学校ホームページ掲載の学校関係者等アンケート結果報告をご参照ください。

(1)調査実施期間:令和 7 年 11 月 7 日(金)～11 月 20 日(木)

(2)回収方法:電子(地域のみ 郵送・持参あり)

(3)対象者及び回収状況:

	対象者数	回収数	回収率
児童(5・6 年生)	356	344	96.6%
保護者(全学年)	1,040	812	78.0%
地域(学校協議会構成委員)	88	40	45.5%

児童の回収率は、先生方の努力もあり 96.6%となった。保護者の回収率は、調査実施期間中に提出を促したこと、アンケート入力後の連絡用紙を提出してもらったことが功を奏して、令和 7 年度は 73.7%だったが、今年度は 78.0%となった。地域の対象者は 1.1%減となった。

(4)調査項目:

今年度はアンケート項目を学校独自で進めることとなったが、前年度の評価結果との比較を行うため、設問変更を行わずに計 92 項目で調査を行った。

児童向け調査については、今年度も5年生及び6年生のみを対象に行った。
「学校関係者評価アンケート集計結果」については、添付した別紙報告のとおりである。

II 重点目標の成果評価

今年度は、「地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる学校をめざして」という方針から、(1)子どものための学校、(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校、(3)地域・保護者と協力して連携する学校、(4)『キャリア・未来デザイン教育』の推進(「せたがや探究的な学び」「キャリア教育」の推進)、(5)危機の予測・回避・管理の意識を高める、(6)学校における「働き方改革」の推進の6つの重点目標をかかげ、進められた。

(1)子どものための学校

保護者アンケートでは、学習・生活・学校行事等「子どもたちのための学校」としての評価は、昨年度より継続しておおむね肯定的である。また、学校自己評価報告書でも、「地・徳・体のバランスがとれ、それぞれが思い描く未来を実現できる児童の育成に取り組んでいる」は、ほとんどの教員が肯定的に回答していた。児童アンケート及び保護者アンケートにおいて、「先生」に関する設問では、肯定的意見が多いことから、先生方が重点目標に取り組まれていることは、児童にも届いていることが今年度も読み取れた。

縦割り班活動「芦花っ子タイム」は、取り組み4年目となり、学期1回ずつのロングと月1回程度開催のショートと時間を分けて開催したと報告された。昨年の課題となった子どもたちの意見や思いを話し合うために、終了後には次に向けての話し合いを行ったとの報告があった。1月からは6年生から5年生が中心となって進めていくことで、準備期間ができる「より良い活動」になることを希望する。

その他、代表委員会「芦花ラス会議」、放課後学習支援教室「寺子屋クラブ」、「体力向上の取組」でも芦花小学校独自の取り組みとして子どもたちが意欲的に活動に参加していると報告された。

特に「体力向上の取組」では、芦花小学校の校舎建て替えた頃からの体力が平均的に低い傾向が課題であったが、今年度6年生が入学した年度は新型コロナウイルス感染対策等で活動の制約があったことも要因のひとつではないかと報告された。

(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校

昨年度までの3年間の特別活動として、授業研究を継続されている。今年度は「国語科」の研究として「主体的な読み手の育成～説明的な文章の学習を通して～」を研究主題に行ったと報告された。また、子どもたちが自主的に議題をあげ、話し合い、進めていくことができたとの報告もあった。年7回の研究発表授業が実施された今年度の研究成果を基に、次年度に向けて継続し、進めていっていただきたい。

(3)地域・保護者と協力して連携する学校

「年間通したあいさつ運動の実施」では、あいさつキャンペーン週間を年3回行い、保護者や芦花わんわんパトロール登録のワンちゃん、地域の方々の参加もあり、今年度も実施された。6年生が担当

日以外でも積極的に参加し、地域の方々と校門に並び、また、芦花中学校の生徒も積極的に参加して校門などで挨拶を交わす様子を見て、芦花小学校・芦花中学校独自の取り組みとなっているように思う。また、継続して「あいさつカード」を活用したふりかえりも行っているとの報告があった。今後も学校・保護者・地域が一体となって、「いつでも、みんなであいさつする」芦花小学校であり、「人との関わりを大切にできる」子どもたちの育成をお願いしたい。

「地域運営学校」では、学校支援コーディネーターと教員とで新年度早々に打ち合わせの機会を設けたことで、年間の予定が立てやすくなったとの報告が双方からあった。また、近隣の保育園・幼稚園との交流会(1年生)、芦花公園花の丘活動(2年生)、地域安全マップ作り(3年生)、世田谷文学館ワークショップやポッチャ体験授業(4年生)、米作りや弁護士によるいじめ防止講話、車椅子バスケットボール体験授業(5年生)、リアル職業調べやネットリテラシー講座(6年生)など、地域の一員として子ども一人ひとりが活躍できる場として、学校と地域の講師との連携教育活動の継続に今後も期待する。

「学校運営委員会」については、自己評価報告書でも「本校では、学校運営委員会の活動について十分な情報が提供されている」において、肯定的回答が連続して 98.0%となった。職員会議で情報提供されているとのことで、先生方にとってもより身近に感じられていると思う。さらに「寺子屋クラブ」や「漢字検定」「サマーワークショップ」等の学校運営委員会事業に先生方も参加されたと報告された。今後も PTA・地域との連携を強化していただきたい。

(4)『キャリア・未来デザイン教育』の推進(「せたがや探究的な学び」「キャリア教育の推進」)

「教育課程」では、限られた時間の有効的な使い方が課題となっている中、先生方から次年度に向けての提案が 115 件提出されてきたことが報告された。

「学習指導」では、全児童にタブレット端末が導入されて 6 年目となり、活用スキルの年間計画を立てて授業で使用されている様子が報告された。現在、ロイロノート、Teams、Qubena は、小学校だけでなく、中学校や高等学校でも使用されるようになってきているが、不適切な使用方法や家庭内での活用等を見守る児童への指導にとどまらず、保護者へのフォローも継続的にお願いしたい。

「芦花の学び舎」による学校運営では、今年度も一体型校舎だからできる移動時間ゼロでの交流活動について報告された。

その他、「生活指導」では、「ノーチャイムの学校生活により、時間を守って生活を送る」ことを、今年度も継続していると報告された。「学校行事」においては、余剰時間が大幅に減った中でも、子どもたちにとって、芦花小学校生活の思い出のひとつとして残るよう様々な行事を進めていただいた。「キャリア教育」の推進では、「キャリア・パスポート」の活用などを活用し、児童自らが成長を感じられるよう取り組まれているとの報告があった。その他、「学び舎による学校運営」としての取り組みなど、学年や学校全体で取り組んでいることを全保護者、地域にも発信し、今後も取り組みを続けていただきたい。

(5)危機の予測・回避・管理の意識を高める

芦花小独自の「ヒヤリハット」の活動や月一回実施の芦花中学校との「合同避難訓練」によって中学生が小学生の良き手本となる機会も作られ、危機管理が身に付いてきていると思われる。

最後に

今年度の芦花小学校学校関係者等アンケートでは、結果として昨年度と同様、総じて肯定的な意見が得られ、学校施策に対する信頼と理解が更に深まっていることが分かった。今後も、この水準を維持していただくことを願い、そのためにも、これまでの活動を継続・強化するとともに、新たな試みについても取り組んでいただくこと、さらに学校生活を安全に楽しく豊かに過ごせるようにご尽力いただきたい。

最後に、子どもたちへの更なるきめ細やかな指導・気配りを継続するためには、保護者・地域の協力が、今後も不可欠である。諸角校長先生の下、先生方が一丸となって教育活動を推進できるよう取り組んでいただき、芦花小学校の子どもたち全員が、これからも楽しい学校生活を過ごすことのできるよう、保護者・地域としても積極的に協力し、応援していきたいと思う。

以上

おわりに・・・

芦花小学校学校関係者評価委員会は、世田谷区「学校評価システム」導入時から、毎年、教職員自己評価報告書や保護者・地域・高学年児童へのアンケート結果を基に、学校の様子を振り返りながら、よりよい学校や教育について検討し、評価報告書を作成してきました。世田谷区が進める「学び舎」や「キャリア教育」の取組みに加え、学区域の拡大や学区内のマンション等の建築ラッシュによる児童数の急増、さらに新型コロナウイルス感染症への対応としての教育現場における感染対策やタブレット端末の全児童への配付などを経て、時代に応じた教育に従事していただき、元気で毎日が楽しいと思える「芦花っ子」たちが毎年巣立っていく姿を見ると、嬉しくなります。

芦花小学校学校関係者評価委員会は、本報告をもって解散となります。諸角校長先生をはじめ、諸先生方に感謝を申し上げますとともに、令和 8 年度からの新たなシステム導入後も引き続き子どもたちが楽しく集い、学んでいけるよう、ご尽力いただきたく、終わりの言葉とさせていただきます。